

2017.8.2 (水)

出演者

カルビー株式会社代表取締役社長兼COO 伊藤秀二さん

福島県商工会議所連合会会長 渡邊博美さん

日本労働組合総連合会福島県連合会会長 今泉裕さん

福島県知事 内堀雅雄

進行

福島県男女共生センター館長 千葉悦子

○千葉館長

それではミニトークを始めさせていただきます。

まず、伊藤社長、大変刺激的なお話をどうもありがとうございました。男女共同参画や女性活躍推進はもちろん、働き方や人の生き方も含めて、考え直さなければいけないと感じさせる素晴らしい講演でした。特に、カルビー株式会社が、「人の成長が企業の成長につながる」ということで、その学びをすごく大事にしていることに非常に共感しました。また、家庭と仕事の両立を支援するための在宅勤務や時短勤務について、周辺の仕事ではなく、ひとつの働き方の選択肢として重要であるということもおっしゃっていただきました。さらに、こうした女性活躍推進や働き方見直しを進めるためには、トップの意識が変わっていかなければならないというとても大事な点をご指摘いただいたと思っています。どうもありがとうございました。

当センターは、男女共同参画の推進拠点ということで、県民の意識啓発を中心に進めてまいりましたが、女性活躍推進法の制定前後から、企業の方々の進めている取り組みなどについてお話を伺う機会を積極的につくってきました。県内でも、なかなか知られていませんが、働き方改革や女性活躍推進に力を入れている企業も多いと最近感じております。そのようなところで、やはりトップの役割はすごく大事だと思います。

一方で、新しい働き方として女性を登用しようとしても、積極的に手を挙げないという意見もあり、働いている方々の意識を変えていかなければならないと、企業の方々も大変苦労しているのではないかと感じております。そのようなことから、センターの果たす役割も非常に重要だと考えております。

以上のような問題意識を持ちながら、今回、ご登壇いただいた方々に、伊藤社長の講演の感想なども含めながら、それぞれのお立場からのご発言をお願いしたいと思います。

始めに、商工会議所連合会会長の渡邊さん、本県の企業を取り巻く現状、女性活躍推進に向けた取り組みについてお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

○渡邊会長（福島県商工会議所連合会）

福島には商工会議所が10あります。そのほかに、各町には商工会がございます。それを合わせますと数は70～80となりますが、そこに所属しているほとんどの企業は中小企業で、割合でいうと97%はいわゆる中小企業です。ですから、働いている人は、100人のうち1人か2人を除いてはすべて中小企業で働いているというのが現状です。

そのようななかで今、課題となっておりますのは、企業というのは実際誰も助けてくれる方はおりません。いわゆる自力でやらなければ企業活動は継続できないという、そういうひとつの大きなテーマを持っています。それを誰がやるのか。いわゆる、よくステークホルダーといいますが、支えている人たちは誰なのか。以前は消費者、お客様が一番大切というふうにいわれておりました。今もそれは変わらないですけれども、実はもうひとつ、先ほど伊藤社長からもお話がありましたように、支えているのは、消費者と同じぐらい、そこで働いている人、この人たちが、本当にその仕事に誇りを持って、その会社に貢献しよう、世の中に貢献しようという意識の塊ができないと、実は企業活動というのは本当に行き詰まります。まさに今、全国的に、地方では特にそのような状況になっています。

ですから、福島県も同じような形で、ステークホルダーの人を中心にして働き方を改革しなければならないということで、今、盛んに「イクボス宣言」をしたり、トップが変わらないとこれはできないということで、そういうことにチャレンジしたりしています。商工会議所だけではなく、いろいろな経済団体が共通に連携をしあって、課題解決をしようと思っております。

私はヤクルトという会社におりますが、女性が非常に活躍しております。実は30年前から保育施設も企業の中に持っております、今でも10カ所運営しています。今は夏休みですから150人ぐらいの子どもさんがその保育施設で過ごしています。

「前例がない」とか、あるいは「時期尚早」という言葉は、今の時代もう既に遅れていますので、我々、やはり中小企業の団体もそういう気持ちで改革をしていきたいというふうに思っております。

#### ○千葉館長

どうもありがとうございました。

それでは、連合福島会長の今泉さん、働く側の立場として、特にトップにどのようなことを求めるべきか、また求めようと考えていらっしゃるのか、働く側の意識なども含めましてお話をさせていただければと思います。

#### ○今泉会長（連合福島）

ちょっと感想を申し上げてもよろしいですか。今日、伊藤社長のお話を聞いていまして、やはり「じゃがりこ」が一番うまいかなと。カルシウムをとって、ビタミンをとって、最後にはヤクルトで整腸する、これに尽きるのだと思います。

今日、始まる前に控室で伊藤社長と初めてお会いしていろいろ話を伺って、第一印象は非常に構えない人だなというふうに思いました。気さくというか、普通に接してくれているという、そこに全然違和感がない。そして、今日の講演の話も、そのまま伊藤社長の人柄を表すような内容だなと思って聞いておりました。そこに内堀知事が入ってきて、ますます構えがなくなりました。いかにんじんの話とか、それで盛り上がりましたけれども、やはり話の中心には、福島県を思う気持ち、そして福島県に対する貢献、そして社員を大事にする環境・条件、そういったものをすごく感じました。本当にありがとうございました。

私からの発言ですが、1つ目は、仕事と家庭の両立というのは、もう時代が要請していることなのだとすることをやはり改めて再認識すべきなのだろうなというふうに思いますし、いろ

いろな会社がありますけれども、それは絶対的に共有する時代になってきているということでもあります。

少し具体的に申し上げますと、まだまだ男尊女卑、女性を差別する、あるいは区別するという言葉もあり、そういった対応をしている会社がまだまだあることは事実です。ただ、そのような対応は現実には時代遅れなのだと、そういうことがいろいろな場面で表れているのだということなんですね。それは最終的には企業の価値そのものを低下させるということになるのだと思います。一時期は顧客満足度の向上ということがよくいわれましたけれども、その後どうなったかといえば、一にも二にも従業員満足度を向上させるということが今の一般的な企業のスローガンになっていると思いますし、こういったことをやはり十分に認識しなければならないということだと思います。そして、女性ということになりますと、女性特有のいろいろな体の違い、そして性の違い等、一番は男性がそれをきちんと理解するということなのだと思います。

2つ目ですが、女性の方は、結婚、妊娠、そして出産、あるいは家庭の対応、それから子育て、さらには学校行事、人によっては介護、そこには待機児童の問題、いろいろなことがありますけれども、夫の理解、そして職場の協力ということがなければ、女性は本当に仕事ができにくくなってきますし、仕事をしたくても辞めざるを得ないというのも、今、申し上げた内容の中に入っているのだと思います。そのようなことで、女性からの連合福島に対する電話相談の中にもこのようなことも含まれているということを申し上げておきたいと思います。

そして、先ほども申し上げましたけれども、女性が働く上で最も大事なことは、つい最近もありましたが、待機児童を抱えていると、どうしても仕事をしたくても仕事に出られない。ですから、待機児童は一日も早くゼロに解消してもらいたいという思いもありますし、その中で、女性が働くための環境、そしてお金もあるのでありますが、やはり条件面を整えないと、なかなか女性が活躍するということにはならないのだと思います。コストの問題もあって非常に難しい反面、やはり時代がそれを求めている。そして、少子化、あるいは人材不足、労力不足ということもいわれておりますので、そういったところに全社を挙げて、社員全員の協力の中でこういったことを埋めていかなければいけない、改善していかなければいけないと思います。

3つ目、最後になりますけれども、女性だけではなく男性も同じですが、どのような仕事に就こうとも、職務に対する自立心と責任感を持つことが私は大事なのだと思います。

#### ○千葉館長

ありがとうございました。

それでは、知事に話を聞かせていただきたいと思いますが、県として、女性活躍推進や働き方の見直し、これにどのようなことを取り組んでいらっしゃるのか、県庁内の取り組みも含めましてお願いします。

#### ○内堀知事

ありがとうございます。ちなみに、カルビーでは私は「じゃがビー」派です。そして、ヤクルトでは「カップ de ヤクルト」が大好きということで、今日は2人に挟まれてすごく健康になった気持ちでお話をさせていただきたいと思います。

まず、伊藤社長の講演、素晴らしかったですよね。私もすごく感激しながら先生と生徒の関係で聞いていました。皆さん、改めて伊藤社長に大きな拍手をお願いします。ありがとうございます。

それでは、生徒として、今日、先生がお話ししたことを3つのキーワードでまとめてみたいと思います。

1つ目は「ライフ・ワーク・バランス」ですね。先生は最後に言いました。「ワーク・ライフ・バランス」というよりも、むしろ「ライフ」が先にくる、その発想の転換が大事だと。福島県でももちろん「ワーク・ライフ・バランス」は大事な単語なのだけれども、「ライフ・ワーク・バランス」、これぐらいの気持ちで事に当たるのだ。これが1つ目です。

次に2つ目は、やはりリーダーシップです。社長、会長、会頭、そういった立場の方、あるいは知事や行政の長が、本気で女性活躍、働き方改革をやるのだと、そういう思いがなければ何も始まりません。そして大事なのは、トップだけではなくて、例えば副社長さんだったり役員だったり、部局長、課長、それぞれの組織のリーダーである人にも我々と同じような思いを共有してもらうこと、これがすべてのスタートだと思います。

そして、最後に3つ目は、やはりチャレンジなんです。やってなんぼ、頭で思っていたってやらなかったら何も始まりません。とにかく新しい出来事に果敢にチャレンジをしてこそ始まります。

例えば、県庁で言えば、2年前に（私が）「イクボス宣言」をしました。そして、「育児休業を取ろうよ」というムーブメントを始めて、今まで8%だった男性職員の育休取得率が、今は26%まで、全国でみてもトップクラスに大幅にアップしました。やればできます。やらないと始まらない。

そのほかにも、超過勤務を減らす、「ゆう活」といって勤務時間をフレックスにする、あるいは、ウォークビズ、ワークサイズという、仕事をやりながら体にいいことをやってみる。今までやれていなかった取り組みに挑戦してみる。一気にカルビーさんのところに追いつくまでは正直いかない。先生の背中はまだ遠いのですが、追いかけてみようと思って、できることから挑戦する、そこから女性活躍、働き方改革、その福島県版が始まると思います。

今日は本当に素晴らしいお話をお聞きすることができました。ありがとうございました。

#### ○千葉館長

3名の方の発言をお聞きして、伊藤社長、どうでしたか。

#### ○伊藤社長（カルビー株式会社）

渡邊さんの話の中で「人に注目する」という言葉があって、まさに仕事というのは、組織でいうと、結局、人の行動なんですね。この人の行動をどう最大化するというのは本当に重要なことで、これが意外と大切にされていなくて、そこに注目してやっていけばうまくいかなと思ひます。

結局、働き方革新も、形だけ入っていってしまうとうまくいかなくなる。ちょっと前にゆとり教育というものがあって、教育の時間だけ減らしてしまえばいいと思ってしまったからおかしくなってしまったと思うんですね。実際、ゆとり教育というのは、本当は何を学ぶか、ということが優先になるはずなのに、時間だけ縮めてしまって、それでよく育っていくと思ったん

ですけれども、結局、時間だけ減ってしまっただけの話になってしまった。働き方革新も、どうやって楽しく仕事をしていい成果を出し、人生を楽しくしていくのか、ということが主だということ、本当に大切に考えなくてはいけないことだと思うんですね。

今泉さんの話ですが、男尊女卑というのがあって、これは本当にまだ部分的に残っているところがあると思うんですね。女卑まではいかないのかもしれませんが、感覚的にそれは男と女は役割が違うんだという考えが残っているので、これをどうにか解消しなくてはならない。

男性リーダーの会と女性の経営者の会があって、それが時々、いわゆる合コンをするんですね。そのときに女性経営者の方から、「そうはいったって、伊藤社長の奥さんは専業主婦ですよ」と言われてしまうんですね。確かに専業主婦なんです。私も家事をしますけれども、妻は専業主婦です。周りの男性に聞いてみると、妻が専業主婦という方が結構いて、まだまだ当たり前にそうなっているなと思いました。

知事の言葉は、本当にきちんとまとめていただいて、ありがとうございます。とにかくチャレンジして、福島県もたくさんの女性が活躍してほしいと思います。我々も、女性を7人役員にしましたけれども、私自身、6年前に女性管理職30%という目標はなかなか出せませんでした。でも、自分の中で「彼女ならできる」と決めて、当時課長だった方を5年間で役員にしています。ですから、彼女には、最初にこれをして、次はこれ、3年目にこれをして、というようにやらないと、絶対にそれは無理です。長い目で見てきちんとスケジュールを組んでやれば実現可能だと思いますので、皆さんに活躍してもらいたいなと思います。

本当にありがとうございました。

#### ○千葉館長

どうもありがとうございました。本当はこれから30分くらい議論できればいいのですが、時間がなくなってきました。3人のご発言、それから伊藤社長のコメント、これらを踏まえて、知事からまとめの言葉をお願いいたします。

#### ○内堀知事

改めて、今日、皆さんと一緒に、女性活躍とはどういうことなのか、あるいは働き方改革とはどういうことなのか、真剣な議論を深めることができました。やはり、私たち自身の当たり前の基準、これを変えていく必要があると思います。

例えば、今日、この会場におられる方はかなりわかっていると思うのですが、昔は半ドン（午前中で授業・仕事が終了する半日休日）というのがありましたよね。土曜日に働いていましたよ、私たち。今は週休2日が当たり前ですけども、一昔前は土曜日にも働くのが当たり前だった。それが今、決して当たり前ではありません。

一方でクールビズ。以前は夏場でも僕らはネクタイをここにぶら下げていました。ぶら下げていなければおかしかったんです。けれども今はほしくないですね。していなくておかしいと思う人もいません。やはり、その時代時代の習慣とか当たり前の基準というのは、我々自身の思いで変えることができます。

今日、伊藤社長から素晴らしいお話を伺い、館長からもセンターとしての思いをいただきましたが、女性をもっと輝いて、男性も生き生きして、さらにワーク・ライフ・バランスという

かライフ・ワーク・バランスがきちんととれる、そういう社会というのは、みんなの思いをひとつにすれば必ずつくれる、今日はそんな思いを皆さんと共にして、ぜひこれからも元気な福島をつくっていきたいと思います。

最後まで本当にご清聴ありがとうございます。